

## 2020 年度 横手の希望創造委員会 事業報告

担当副理事長	鈴木 武	委 員	長岡 孝仁
委 員 長	奥山 豊和		松井 寛将
副 委 員 長	永須 巧		渡部 学
副 委 員 長	柴田 晋吾		阿部 江利 (賛助)
幹 事	熊谷 剛		佐藤 美幸 (賛助)
委 員	打川 毅		助川 寛奈 (賛助)
	柴田 和人		高橋 真理 (賛助)
	谷口 賢一		

### 1 年を終えて

今年度横手の希望創造委員会では、まちの課題を解決するため市内の他団体と協働し 2018 年度に発足した「よこラボプロジェクト実行委員会」の活動を継続し、新たな事業実施に向けて準備を進めて参りました。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言の発令等により、不特定多数が屋内に集まるイベントの開催は断念することとなり、その後も 3 密を避けた新たな生活様式に配慮しながらの運営となったことから、想定していた形での事業展開は叶いませんでした。

9 月の活動再開後は、当初計画していた「直接選挙により選出された市民の意思を代表する機関である、市議会との関係づくり」を進めることに特化することとしました。大規模な自然災害が多発していることを背景に、私たち青年会議所会員が災害発生時にそれぞれの地域において、防災リーダーとして共助を支える意識付けと人材育成を図ることで、官民一体のパイプ役としての防災意識を醸成し、多様な方々と地域防災について共に考える懇談会を実施しました。改めて、誰もが関わりのある「防災」を自分事として考え直すきっかけとなり、まちの課題解決に向け協働の輪を更に広げ、新たなネットワーク形成に資する活動ができたことは大きな成果でした。

#### ■2 月例会「横手の希望 (ゆめ) 創造 2020 キックオフ・ミーティング～よこラボプロジェクト実行委員会とともに～」について

当日は、2019 年度よこラボプロジェクト実行委員会の活動と引き継ぎ事項、2020 年度の活動方針について、新規団体を含めた 26 名の参加者全体で共有することができました。また、グループワークでは、第 1 回実行委員会にて決定した今年度のよこラボプロジェクト事業「つむ♪らんど 2020」開催に向け、子どもの居場所づくり、子育て支援、世代間の交流、地域との連携をキーワードに、参加団体の強みを活かせる新たな事業提案について話し合いを行いました。2 つの候補地 (金沢孔城館・十文字西地区館) の図面を提示することで、会場の雰囲気イメージしたより具体的な事業提案が行われました。

#### ■10 月例会「地域防災について考えよう～市民と議会の懇談会～」

当日は、横手市役所危機管理課、横手市議会、よこラボプロジェクト実行委員等外部団体の皆様を含め 36 名の参加をいただきました。第一部の防災講話では、横手市において特に積雪期の地震が最も心配される災害だということを確認し、避難所や備蓄、情報伝達手段など市の防災対策の現状について参加者全体で共有しました。第二部のグループディスカッションでは、「防災クロスロード」の簡易体験を通じて「公助の限界」について話し合い、自分たちにできる解決策を具体的に提案することができました。

参加者に対する事業後のアンケート結果では、地域防災に対する意識が高まった割合が 97% となり、KPI (70%) を大きく上回る結果となりました。本事業を通じて、事前の備えや地域全体で話し合いコミュニケーションを築いておくことの大切さを共有することができ、共に地域防災を支え災害に強いまちづくりに貢献していくためのきっかけとなりました。

### ■よこラボプロジェクト実行委員会協働事業について

春以降は、新型コロナウイルスの感染拡大により、協力団体においても独自の活動ができない時期が続きました。結果として定期的に実行委員会を開催することは叶わず、LINE 等を活用したお互いの近況報告や事業の周知などの活動に止まりました。コロナ禍において何ができるのか話し合うなど、積極的に協働の輪を拓くための活動が不足していました。

今後の「よこラボ」のあり方としては、幅広い世代や職種の方々が集まり地域課題を共有しコミュニケーションを図る貴重な場として継続していくことを第一に、これまでのように青年会議所が運営を主導するのではなく一構成団体として関わっていくなど、実行委員の皆様との対話により新たな形を模索していきます。

## 事業報告

事業開催日	事業名	開催場所
2月22日	2月例会「横手の希望（ゆめ）創造 2020 キックオフ・ミーティング～よこラボプロジェクト実行委員会とともに～」	よこてシャイニーパレス 5階 瑞穂の間
10月24日	10月例会「地域防災について考えよう～市民と議会の懇談会～」	ベッチモント yokote 3階 会議室

## 会議報告

会議開催日	会議名	開催場所
2019年 10月 22日	第1回委員会	Y <sup>2</sup> ふらざ 3階 市民活動スペース
10月 24日	第2回委員会	よこてシャイニーパレス 4階 和室
11月 27日	第3回委員会	横手商工会議所 3階 会室
12月 16日	第4回委員会	秋田県南部男女共同参画センター
2020年 1月 25日	第5回委員会	よこてシャイニーパレス 4階 翡翠
2月 18日	第6回委員会	横手商工会議所 3階 会室
5月 31日	第7回委員会	オンライン (ZOOM)

6月17日	第8回委員会	金沢孔城館 談話スペース
7月13日	第9回委員会	横手商工会議所 3階 役員室
8月20日	第10回委員会	オンライン (ZOOM)
9月28日	第11回委員会	横手商工会議所 3階 役員室
10月19日	第12回委員会	横手商工会議所 3階 会室
11月19日	第13回委員会	横手商工会議所 3階 会室
12月8日	第14回委員会	秋田県南部男女共同参画センター

## 反省点及び申し送り事項

### ■2月例会「横手の希望（ゆめ）創造 2020 キックオフ・ミーティング～よこラボプロジェクト実行委員会とともに～」

#### 【評価点】

- ・ これまでよこラボプロジェクト実行委員会（以下、実行委員会）の活動に参加し、昨年度の「つむ♪らんど」を経験しているメンバーや、今回初めて参加したメンバーと様々な視点から提案を頂いたことで、昨年度の反省を活かし、よりバージョンアップした事業展開に向けての有意義な話し合いをすることができました。
- ・ 第1回実行委員会で作られた提案と今年度事業の方向性をとりまとめたワークシートを配布したことで、テーブルワークにおいて共通認識を持った議論ができました。

#### 【改善点】

##### （事業前）

- ・ 事業計画 KPI では参加 15 団体、新規 5 団体の参加を目標に、市役所子育て支援課を訪問し、市の子育て支援団体に登録している新規 20 団体以上に案内文を配布し参加を呼びかけましたが、参加 6 団体、新規 1 団体の参加しか得られませんでした。
- ・ よりたくさんの方にご参加頂けるように土曜日夜の開催としましたがあまり成果は得られず、「参加団体の固定化」という引き継ぎ事項の課題解決策について、実行委員会や委員会において協議を重ねていかなければなりません。
- ・ 今回はご参加頂けなかった新規 1 団体（わくわく科学工房）に直接連絡をとった結果よこラボプロジェクトの趣旨にご賛同頂き、今後は協力を得られそうなので、次回以降実行委員会への参加を呼び掛けて参ります。
- ・ 「ジュニアリーダーの活躍」を今年度の活動方針に掲げていますが、残念ながら今回は参加が得られませんでした。事前訪問し趣旨を説明したことで活動の方向性は共有されているものの、テスト期間中という情報を事前に得ることで、開催時期について配慮する必要がありました。生徒は平日夜よりも土日の方が参加しやすいとのことなので、実行委員会を開催する際の参考として参ります。
- ・ 事務局タイムに必要な備品（タペストリー）について、事前にどこに保管されているか把握していませんでした。

##### （事業当日）

- ・ 2020 年度の方針説明に時間を要し、全体的にスケジュールが押してしまいました。グループワークについては、話し合いの雰囲気を見ながら 60 分の予定を 65 分に延長しましたが、模造紙の記入を早めに呼びかける配慮が必要でした。

##### （事業後）

- ・ 当日欠席した実行委員への報告書送付が 1 ヶ月後となってしまう、速やかに行う必要がありました。

### ■10月例会「地域防災について考えよう～市民と議会の懇談会～」

#### 【評価点】

- ・ グループディスカッションに、「防災クロスロード」の簡易体験という手法を用いたことで、自らが災害に直面している気持ちになってその対応を考えながら、具体的なイメージをもって話し合いをすることができました。
- ・ 青年会議所会員のみならず外部から参加者を募ったことで、多様な方々と地域ぐるみで防災に取り組むための有意義な話し合いをすることができました。
- ・ 事業レポートを作成し配布したことで、参加者には振り返りと今後の防災活動の参考に、参加できなかった会員には情報共有として活用することができました。また、関係機関や実際に避難所となる市内公民館等に配布し、広く市民の防災意識向上に役立てることができました。
- ・ これまでも市議会議員を講師に招く事業を行ってきましたが、定期的な開催を望む声が多数あり、今後も市議会と青年会議所が協力した事業を進めて行くきっかけとなりました。

#### 【改善点】

- ・ 委員会内において、事前にテーブルファシリテーター同士の話し合いが不足していたため、グループごとに進行のずれがありました。時間配分を含めて、事前の調整やシミュレーションをもっと丁寧に行う必要がありました。
- ・ 横手市危機管理課との打ち合わせは委員長が単独で行いました。委員会メンバーが事前調整の段階から関わりを持ち、市の防災対策の現状など事前に理解を深めた上で参加することで、より様々な意見を引き出す効果的なファシリテーションが可能となり、さらに有意義な話し合いに繋げることができました。
- ・ グループディスカッションの際、付箋への記入はマジックを使用するように徹底すべきでした。ボールペンで記入したものはグループ発表の際見えにくく、保管用として模造紙を撮影した画像も鮮明ではありませんでした。
- ・ 会場が手狭に感じました。マスク着用の徹底、常にドアを開放し換気を行いましたが、コロナ禍に配慮しスペースを確保した会場設営を行うべきでした。
- ・ 記念写真撮影が終了後となってしまいました。外部参加者が退場する前に全員で行うべきでした。
- ・ 市・市議会以外の外部参加者が3名に留まりました。これまで、よこラボプロジェクト実行委員会との協働による事業を行ってきた経緯を考えると、実行委員への事前の周知を丁寧に行うなど、より幅広い参加者を募る努力が必要でした。